

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2799100090		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホームこころあい三津屋		
所在地	大阪市淀川区三津屋中2丁目12-2		
自己評価作成日	平成 24年 11月 15日	評価結果市町村受理日	平成 25年 1月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と一緒に地域貢献を積極的に取り組んでいる。その人の生活歴(やってきたこと)と現在、出来る事に目を向けて何か地域に参加して役立てることはないかと日々取り組んでいる

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JkyosyoCd=2799100090-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 11月 29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2年前に開設された比較的新しいグループホームで、関係者の努力により運営は順調に推移しています。母体法人のリーダーシップにより、大阪・兵庫県内に6カ所のグループホームと協力連携し、地域との関係作りや運営方法、人材の発掘・育成等の面で成果を挙げています。ホーム内は居室や共用空間全てが畳敷きになっており、高齢者に優しく温かみのある空間になっています。ホームは、便利で庶民的な街並みの中にあることから、短期間で地域に溶け込むことができ、地域住民との交流は多彩で、日常的に交流ができています。利用者は地域住民と職員のサポートを受け、自身のできる得意なことに力を発揮し、生き生きと活動的で楽しい生活を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念【心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む】を各フロアに掲げ理念を共有して日々のケアに心掛けている。又、運営推進会議等で地域の方々にも理解していただいている	「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で 共に歩む」を理念と定め、明示しています。定例の全体会議やカンファレンス、勉強会、危機管理や美化などの委員会活動、毎日の業務等を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	班長として自治会会議に出席し、自治会行事には積極的に入居者様と一緒にお手伝いをさせていただいている 又、散歩時、近隣の方へ明るく挨拶、会話をしようし馴染みの関係作りに努めている。又、入居者様と一緒にホーム周辺の美化・清掃を行い地域貢献を心掛けている	開設後2年程ですが、地域とのつきあいは多彩で、日常的に交流ができています。管理者が自治会班長を担うと共に、利用者も散歩の時の挨拶だけでなく、周辺や公園の掃除を行い、商店街や自治会会館での地域の交流会に参加する等、積極的に役割を分担しています。また地域の多くのボランティアと一緒に習字や朗読、歌、フラダンス、腹話術等を楽しんでいます。更に職員は、地域の郵便局職員に向けて認知症勉強会を実施し、小学生の認知症の教育用小冊子作りにも参加し、福祉専門学校の実習生も受入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所連絡会、淀川区家族会等に参加し、日々の生活支援、認知症であるが故の周辺症状に対するケア、又、積極的な地域参加等の報告をさせていただき、地域の方々の理解を得られるように努めている。又、ホームご見学いただき、日々の生活（実際の状況）を見ていただくようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月に1度開催し、入居者様、家族様、地域の方に参加していただき、日々の生活状況、事故報告、地域参加報告等を行い、出席の皆様から意見、協力をいただくようにしている。又、該当する月例の全体会議において職員に報告し情報共有を図ることを通じてサービス向上を常に意識するようにしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民の代表、利用者、家族の参加のもと、おおむね年6回のペースで開催しています。会議では、利用者の状況や事業所活動状況、事故の報告、地域との交流、行事等について説明し、ホーム運営の課題や、より深い地域との交流の仕方などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様、家族様からの相談・不安事への相談などの助言を頂いている。又、訪問時には日常のケア、入居者様の状況報告をさせていただいている	区の担当職員とは報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築き、地域包括支援センターとも情報交換ができています。区内のグループホーム事業所連絡会や家族会にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に周知徹底している。又、日々の業務でも具体的な行為を確認し合いケアにあたっている。玄関の施錠におきましては家族様の意向で常時開放していませんが、テンキー番号は掲示している。又、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出るようにし、精神的な拘束がないように努めています	身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関扉は、過去に利用者が離脱した経緯から、昨年の外部評価以降も暗証番号は表示していますが、施錠が続いています。しかし、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	職員間で共通の理解と認識を得られるよう十分な話し合いを行い、安全面に配慮しながら、利用者や家族への心理的拘束感を軽減するため、日中の可能な時間帯だけでも鍵をかけないよう、更に検討してはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に周知している。又、日々の業務でも具体的な行為を確認し合いケアにあたっている。又、管理者、ユニットリーダーは職員の精神的なケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に理解してもらっている。成年後見人制度に関しては、入居者様の中で活用している方がおられるので、関係者間で話し合いをもち理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとり分かり易く説明させていただき、その都度、疑問、不安点を尋ねていただき、正確で丁寧な説明を行い、理解、納得して契約してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族様には意見、要望がないかとアンケートを実施している。外部者に対しては運営推進会議においてその機会を設けている。その後、月例の全体会議で反映されるように話し合いの場を設けている	家族とは、面会時には利用者の生活状況や連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。また、家族アンケートを実施して、意見収集をしています。毎月、利用者一人ひとりの行事や日常生活でのスナップ写真を載せ、その利用者の生活状況を担当職員が手書きで書き添えた「こころあい三津屋」たよりを発行し、家族に送付して家族の好評を得るなど、家族とのコミュニケーションは良好となっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケート調査を実施している他、月例の全体会議で意見、要望を話し合う時間を設けている。又、スタッフ面談を実施し、個別の時間を設けている。それにより各職員の意見を吸い上げ、より良い運営に反映するように努めている	職員は、定例の全体会議や勉強会、委員会活動、日常の業務等を通じて、意見や提案をする機会があります。また管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にし、職員アンケートや定期的に個人面談を実施する機会を設けています。法人内の研修制度も充実しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員には、職務領域について把握、理解してもらいながら「優秀な人財」の育成に共同で取り組み、各自が向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「優秀な人財」育成の取り組みとして、個々にスキルアップシートを用意し、目標を立て自身の課題を明確にしている。又、日々のケアの振り返りも含め働きながらケアの質の向上に努めている。又、法人内外の研修、資格取得へのサポートも行っている。2ヶ月に1度グループ内外交換研修を実施している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>淀川区グループ連絡会に3か月に1度参加し情報交換をしている。又、職員間で3ヶ月に1度、「現場の声」として勉強会を行っている その他に、リーダー・実践者研修受講終了者間でのネットワークづくりや情報交換を行い質の向上への取組みを行っていく予定です</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、家族様を始めとして、今までの生活を支えてこられた方全般から情報収集し、まずは信頼関係の構築を目指し、傾聴の気持ちで寄り添い個々人にあった支援の方法を考えている 入居前でも信頼関係の構築の為に行事へのご招待をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様とも十分な時間を設定し、困っていること、不安なこと、要望等に傾聴の気持ちで接し、安心されるまで何度も面談を実施することを通じて、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず入居者様の「出来ている事」「困っている事」を重視し、その中で、今必要とされている支援を見極め、入居者様、家族様と一緒に話し合いを行った後、種々のサービス(プラン)を設計し、実践できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の感情に共感の気持ちで寄り添い、日々の生活で「出来る事」をみつけ、ホームでの本人様の役割を担っていただき、一緒に生活していることへの実感を持っていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子や職員の思いを丁寧に伝える事により、家族様と職員の思いを共有し、本人様を支えて行く為の協力関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様のこれまでの馴染みの場所や人間関係を継続できるように個々それぞれの生活習慣を尊重し支援している。又、ホームの近隣の方とも馴染みの関係を築けるように地域の催しものには積極的に参加するようにしている	ホーム入居以前から、いつも家族と誕生日会をしていた馴染みのホテルで、利用者の誕生日会を開催する支援を行った事例があります。その他、常時銭湯を利用していた利用者と一緒に銭湯へ行ったり、図書館や映画館、音楽会に行く支援をしたりする等、利用者が大切に思う、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ本人様の生活歴や性格を尊重しながら、一緒に過ごす楽しみを感じていただけるよう職員が、入居者様同士の会話や場づくりの調整役となって支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が亡くなられた家族様には、お手紙・電話などでその後のご様子などをお伺いしたり、ホームの方へ立ち寄ってくださるようにお伝えしている。又、他の施設へ移られた方には、ホームで仲の良かった入居者様と一緒に訪問させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で、本人様の言動に注意し、何を望んでいるのかを推察し職員全体で話し合いながら常に本人様本位を念頭にケアしている。又、家族様からの情報収集にも努めている	入居時のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取った思いや意向を毎日のケア記録に記載しています。しかし、職員間で情報を共有化するための記録の整理や把握には、工夫の余地があります。	全職員が共有できる情報にするために、各職員が知っている利用者の現在の思いや意向を把握し、記録することが期待されます。例えば、利用者一人ひとりの思いや意向を記入するノートを作成してはいかがでしょうか。また、センター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用し、研修を兼ねて、職員と家族にも協力を得ながら作成に取り組まれてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様、これまで関係のある方々からどのような生活をされていたかの聴き取りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとり様の一日の生活リズムを把握し、小さな変化にも気づき、介護記録を通して職員間で把握・共有できるようにしている。又、できることに着目し、出来る限り自立した生活を送っていただけるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様から日々の係わりの中で、要望や不安などを聴き、介護計画に反映している。又、居室担当を設け、ご本人の内面にも注意し、月1度のカンファレンスにおいて職員全体で意見交換し、現状確認と達成状況の振り返り並びに見直しをはかり、介護計画を実のあるものとしている	介護計画は6ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は、介護計画の支援内容を介護記録で毎日モニタリングしています。毎月のカンファレンスや、3ヵ月毎に居室担当者と計画作成担当者とは共同で実施するモニタリングで話し合い、サービス担当者会議を開き、介護計画の見直しにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、ケアプランに沿って支援する中、身体的状況、感情の変化等を記録し、職員間で情報共有している。又、就業開始前には必ず個別ファイルを確認するように義務づけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況に応じて、通院や往診等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、図書館に本を借りに行っている。消防署とは協働で避難訓練を行っている。又、地域のボランティアの方にも訪問していただき、楽しい時間を過ごしてもらうひと時に協力していただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、以前からのかかりつけ医にも受診できるようご家族と協力し、通院の介助を行ったり訪問リハビリなどに来てもらうケースもあり複数の医療機関との関係を密に結んでいる	家族の同意を得て、利用者全員が協力医療機関の在宅訪問診療制度を利用し、週1回の往診と週2回の訪問看護を受けています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時対応についての体制も整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師とは、気軽に相談できる関係が出来ており、看護師との医療連携が密にとれる体制が出来ており迅速かつ安全な対応を実践している 毎朝、バイタルと本人様のご容態をメール発信し、情報共有を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院による精神が不安定になることを極力防ぐべく医師と話をする機会をもち、ホーム内での対応が可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。又、頻繁に見舞いに行くようにし、同時に家族とも情報交換しながら、回復状況等早く退院できるよう取り組んでいる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する支援方針については、家族、医師、看護師、職員間で話し合い、共有した支援方針を定めている。又、状態の変化があるごとに本人様の思い、家族様の気持ちの変化にも配慮し、精神的にも支えられるよう取り組んでいる	ホームでは看取りを実施する方針であり、契約時と看取り実施時にそれぞれ利用者の意向を確認し、看取りの実績もあります。今後利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメントに関しては、全職員が月例の全体会議で勉強会を行い、体得、習得するようにしている。又、緊急時対応マニュアルを整備し、その理解への周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救急手当や心配蘇生等の研修を実施し全職員が対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難経路の確認、消火器の使い方及び実際に避難する訓練を定期的に行っている。又、マニュアルを作成し、月例の全体会議で勉強会を行い全職員に周知徹底している。地域との協力体制については、自治会や運営推進会議で協力をお願いしている	消防署に協力を依頼していますが、消防署の状況により、年2回自主的な避難訓練を実施しています。災害時の食料と水の備蓄については、前回の外部評価以降、準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、お一人おひとりに対し人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや応待をしている。月例の全体会議において勉強会を行い全職員に周知徹底している。日々の係わりの中ではユニットリーダーを中心に、不具合がないか職員間で意識向上が図れるように確認し合っている	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。利用者は生き生きとしており、会話と笑顔のある暮らしをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者本位で生活が送れるように思いや希望を傾聴し、自己決定できるように複数の選択肢を提案し、お一人おひとりにお声かけするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりに寄り添い傾聴の気持ちで接し、本人様の一日のリズムを把握し、体調に配慮しながら、その日の本人様の気持ちを尊重しながら、その人らしく豊かに暮らしていただけるよう個別に柔軟に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えなどでは、出来る方にはしていただき、支援が必要な方には職員と一緒に手伝いながら、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けは、個々人毎にできることを見極め、声かけしながら一緒にするようにしている。又、職員も一緒にテーブルについて楽しい食卓になるように声かけしながら食事をしている。	食材業者から取り寄せた食材を、職員が調理しています。利用者は食事準備、調理、盛り付け、後片付けなどの得意な分野で役割をもって参加し、楽しんでいきます。職員は、利用者と共に同じものを食べながら、楽しい雰囲気づくりに努めています。また、食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをしています。月1回程度食事レクリエーションの機会を設け、海鮮どんぶり、すし、餃子等の手作りメニューで利用者と一緒に買物から調理、食事までを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は個別記録し、一日を通じて必要量が確保できるように支援している。又、食事は見守りの中で出来るだけご自身の残存能力を活かした飲食ができるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは声かけを行い、個々の能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。月例の全体会議で勉強会を行って口腔ケアの重要性を全職員に周知徹底している。又週1回の歯科の往診により口腔内の清潔保持、口腔機能向上の指導を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを職員間で情報共有し、トイレ誘導することでトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。又、声かけをして残存能力を活かせるよう見守り支援している。入居前にオムツを使用されていた方に対して、誘導することによりトイレでの排泄が可能となるよう取り組んでいる	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導によるトイレでの排泄支援を継続して行った結果、声かけだけで、自立に近い状態まで大幅に改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝トイレ誘導し、排泄の習慣をつけていただくよう支援している。又、水分摂取や胃腸の働きをよくする食べ物を摂取していただくのと並行して日常的に運動を取り入れたり、薬での対応もしている。月例の全体会議等での勉強会において便秘の原因や及ぼす影響についての知識を職員間で共有している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めずに、お一人おひとりの希望を聞き本人様のタイミングで入浴していただいている。自立した入居者様でも背中を流したりしながら見守りし、安全に安心して入浴を楽しんでいただくようにしている	利用者は平均して週3回入浴を楽しんでいます。希望すれば毎日でも入浴できます。入浴を好まなかった利用者も含め、入浴剤を使用したり、バラ風呂やヒノキチップ風呂にしたりする等、さまざまな工夫により、入浴を楽しんでいます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中は、なるべくリビングで過 ごしていただけるように家事など お一人おひとりに役割をもっ ていただき、活動する時間を設 計し、夜間帯にゆっくと休んで いただけるように支援している。 体調などに配慮し、時には居 室やソファなどでの休息もとっ ていただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	服薬ファイルの作成や処方箋の コピーを整理し、職員が内容を 把握できるようにしている。服 薬時は、他の職員と2重チェック を行い、本人様に手渡し、きち んと服用できているかの確認を している。又、薬の処方や用量 が変更されたり本人様の状態に 変化が見られる時には詳細に記 録し、協力医療機関との連携を より密に図るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	お一人おひとりの出来ること に注目し、一緒にお手伝いをし ていただくようにしている。又、 感謝の言葉を伝えるようにし ている。外出や地域行事への参 加などの楽しみごとなどは、入 居者様と一緒に相談しながら行 っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望にそって外出し、季節を感じていただけるように支援している。又、今までの馴染みの場所や趣味を大切に、ホームに入居されても今までの生活習慣を大事にするように心掛けている。普段行けないような場所でも計画を立てて出来る限り本人様の意向に沿うようにしている	職員は外出支援に力を注ぎ、日常的に公園散歩や商店街、コンビニ、スーパー等へ買物に出かけ、地域の交流イベントや音楽会、図書館などにも出かけています。季節の花見や少し遠足の遠足、イベントにも出かけています。利用者は、家族とも外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっているので、本人様と一緒に買い物に出掛けている。又、出来るだけ本人様に選んでいただけるように支援している。お金を支払う時でも、ご自分で財布からだしていただける方は見守り支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様といつでも気軽に電話ができるよう職員の方からお声がけして、通話していただけるように支援している。家族様からの手紙等は、時には職員が読んで差し上げるなどの支援もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間などの湿度・温度に気をつけながら心地よくすごしていただけるように注意している。調理においては、包丁の音や匂いなどで五感や季節を感じてもらえるような工夫をしている。又、入居者様と職員で季節を感じれる作品を作成し壁に飾ったりしている	ホームは、便利で庶民的な街並みの中に立地しています。ホーム内は居室だけではなく、共用空間全てが畳敷きになっており、居間には床暖房が設置されています。壁には、利用者の書道や折り紙細工の作品、季節の飾り付け、行事写真が飾られています。また、キーボードやソファもあり、高齢者に優しく親しみと温かみのある空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルの他にソファや椅子を置き、他の入居者様の気配を感じながらも独りでの時間を楽しんだり、気の合った仲間といられる工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの家で使い慣れたものなどを持ってきていただき出来るだけ環境変化がないように配慮している。又、安全・安心に過ごしていただけるよう配置なども本人様、家族様と相談しておこなっている	居室には、利用者が得意な書道作品や様々な色模様の折鶴、昔釣った大きな魚拓や手作りこまが飾られています。馴染みの整理タンスや机、椅子、位牌や遺影、家族の写真、書籍、テレビ等を自由に持ち込んでいます。居室には、編みかけの編み物等も置かれており、個性的で居心地よく過ごしやすい雰囲気になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、浴室、トイレなどに手すりをつけ安全確保と自立への配慮をしている。</p> <p>又、トイレの場所や居室の認識をしていただけるよう工夫している</p>		